

仲間同士の絆を胸に 連日連夜の厳しい訓練の成果を発揮!

平成28年度春季消防演習・ポンプ操法競技会



優勝は第2分団九ヶ谷隊

さわやかな青空が広がった5月15日、ふれあいどくむす会場に、村消防団の春季消防演習及びポンプ操法競技会が行われました。

ポンプ操法競技会では、今年度は5チームが各分団より参加しました。この日のために、1か月以上にわたり、規律や操法技術などの練習を重ねてきました。当日は、選手

の家族なども応援に駆け付け、熱い声援が飛び交うなか、緊張した表情の選手たちは、すばらしい操法を披露し、熱戦を繰り広げました。

結果、第2分団九ヶ谷隊が優勝。6月26日に神林農村環境改善センター(村上市)で開催される郡市ポンプ操法競技会に出場します。

◆競技会成績

- ▽小型ポンプの部
- 優勝 第2分団九ヶ谷隊
- 第2位 第3分団女川隊
- 第3位 第1分団霧出隊

◆優秀選手賞 *敬称略

- ▽指揮者 佐藤 史昭
- (第3分団女川隊・上野)
- ▽1番員 高橋 智裕
- (第1分団霧出隊・鍛江沢)
- ▽2番員 星 秀平
- (第1分団下関隊・下関)
- ▽3番員 伊藤 圭佑
- (第2分団上関隊・上関)



優勝チーム選手 *敬称略

- 須貝祐介(荒川台)・新野貴洋(金丸)・菅原将之(片貝)・船山正紘(下川口)・高橋兵栄(下川口)

新品種「新之助」の田植えを実施!

5月18日、新潟県の米の新品種「新之助」の先行販売に向け、村でも田植えが行われました。

「新之助」は、県がコシヒカリに並ぶブランド米を目指して開発した米の新しい品種で、今年から県の新之助研究会登録を受けた研究会員の農家が栽培して先行販売され、来年からは量を増やして一般販売されます。

この日、農事組合法人上関ふあーむ(伊藤宗吉代表理事)では、広さ20アールの田んぼ2枚で「新之助」の田植えを行い、



15センチほどの背丈の苗が機械で次々と植えられていきました。上関ふあーむでは、県の指導を受けながら「新之助」の栽培を続け、9月末から10月上旬ごろに稲刈りをする予定。県でも生育状況の調査を行っています。

伊藤代表は、「晩生品種の新之助が村での作付けに適しているのか確認をしたい。消費者に喜んでもらえるような米になって欲しい」と話していました。

「新之助」は、今年、県内で100㍍の作付けが予定され、岩船村上地区で約9㍍、村では40㍍が栽培されます。村での新品種栽培に期待が寄せられています。

関川中学校でもち米大作戦を実施
 ～田植え・杵つけ作業を体験～

5月16日、関川中学校（山崎明校長）の全校生徒127人が近くの学校田で田植え作業を体験しました。ぬかるむ田んぼに悪戦苦闘しながらも約20アールにもち米（品種こがねもち）の苗を植え付けました。

関川中学校で稲作学習を行うのは初めてで、郷土の主幹



産業である稲作学習を通して、米作りに取り組む人たちの思いを知ってもらうことがねらい。JAにいがた岩船の職員や地域のボランティアから、「第1関節の深さまで」「3、4本指で苗をもって」と指導を受け、冷たい土の感触に声をあげながら丁寧に植えていきました。

ヒルに血を吸われながらも田植えをやりきった横山夏樹さん（3年・辰田新）は、「小学生の時とは違って、自分で植えたという達成感がある。秋の収穫が楽しみ」と話してくれました。

今後は、除草作業もJAの指導をうけながら生徒たちが体験する予定。収穫したもち米は、料理して地域の人へのおもてなしや村の農林業まつりでの販売、赤飯にして卒業式で配布することを計画。

生徒たちは、身近にある田んぼ作業を通して、ふるさとの自然豊かさを体感していました。

道の駅関川
 電気自動車用充電器を設置

5月2日、道の駅関川に電気自動車用充電器が整備され、お披露目が行われました。

電気自動車用充電器は、道の駅の発展や利用促進、災害対策拠点機能の充実を目的に日本充電インフラ（株）（東京都）が事業主体となり整備したものです。今後の管理は（公財）自然環境管理公社が行います。

30分でバッテリーの80%まで充電可能となる急速充電器2台と蓄電池が附属された普通充電器2台が設置されました。蓄電池は、災害が発生した際に非常用電源として電力供給ができます。

平田大六村長は、「電気自動車は、村ではあまり普及していない。これから利用が増えてくるはずで、観光地としてお客さまを迎えるために必要な設備である。充電中の間に、道の駅周辺の観光施設を利用してもらいたい」と観光客の集客に期待していました。



ミニチュア三重塔
 「本物みたい」
 朴坂・佐藤忠仁さんが制作

三重塔のミニチュアを趣味で制作した佐藤忠仁さん（朴坂）が集落で注目を集めています。

制作した作品は、胎内市乙の乙宝寺境内にある三重塔。佐藤さんは、昨年12月に乙宝寺に通い、写真撮影を重ねて図面を作成。今年の正月過ぎから作りはじめました。写真を見て建物の寸法を割り出し、ヒノキの切れ端などを使って細部まで精巧に仕上げています。

佐藤さんは、2年前に手根管症候群と診断され、指先にしびれを発生し、手術を受けました。手の動きが少しずつ回復してきた佐藤さんは、昔仕事をおそった師匠がボケ防止のために木製ミニチュアの三重塔を作っていたのを思い出し、自分も作ろうと思ったそうです。

訪れる近所の人にも「すごい」と感嘆の声を上げながら写真を撮っていきます。佐藤さんは、「今回の出来に満足していないので、もう1回つくりたい」と語っていました。